

すべての子どもたちの確かな学力の定着をめざして —子どもたちの学力を支える「背景」をさぐる—

西田 晋

本研究では、子どもたちの「学力」を支えているものは一体何か、その「背景」に迫るために、家庭学習の実態把握を主とする生活意識調査を行い、学力定着調査の結果との関連をふまえて分析を進める。特に、「家の人のかかわり」に着目し、学力を支えている環境や条件などの諸要素を明らかにすることができれば、学校と家庭とが子どもの情報を共有しながら話し合う際の視点が、より明確になると考える。分析を通して学力を支える「背景」を浮き彫りにし、子どもたちのために、今何を大切にして取り組むことが必要なのかについて、若干の提言を行う。

第1章 研究の概要

第1節 先行調査研究から

筆者が行った昨年度の研究では、子どもたちの実態を「学力階層群別にみる視点」が、分析を進める上で有効な視点となった。

また、すでに、学力と生活意識、家庭環境との関連をさぐるために、全国規模で取り組まれたいくつもの先行調査研究があり、「家の人のかかわり」が学習に向かう姿勢を支えるものとして重要な意味をもっている等の報告がされている。

第2節 調査の概要

本調査では、家庭学習の実態把握を主とした生活意識調査を行う。質問紙の作成にあたっては、「子どもの実態」とそれを支える「家の人のかかわり」と対応した形で把握できるようにした。あわせて、児童の学力実態を把握できるように、平成18年4月に実施した学力定着調査の結果についても担当者による記入を依頼した。

<調査の対象> 京都市立小学校6年生児童

<調査時期> 平成18年7月5日～21日

<有効回答数> 1,420件

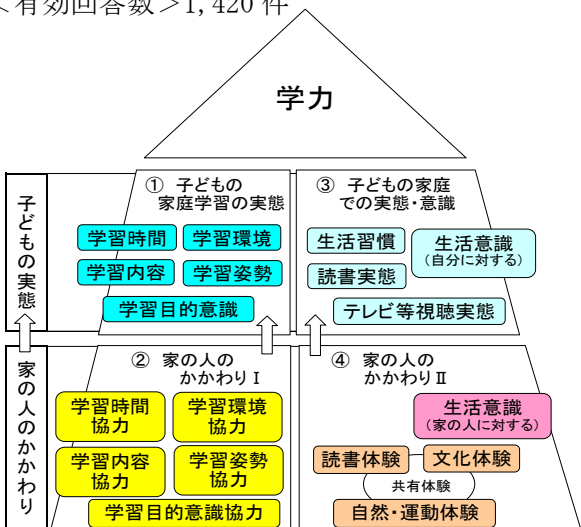


図1 調査構造

第2章 家庭での学習・読書の実態から

第1節 「学習時間」の実態から

平日・休日の学習総時間（学習塾を含む）を学力階層群別に分析すると、学力階層の上位群ほど「2時間以上」と回答した割合が多かった。また、学力階層の下位群ほど、「30分以内」「ほとんどしない」と回答した割合が多かった。

特に、休日に「ほとんどしない」と回答した割合に着目すると、平日と比べると学力階層の下位群ほどその割合が多くなっていった。

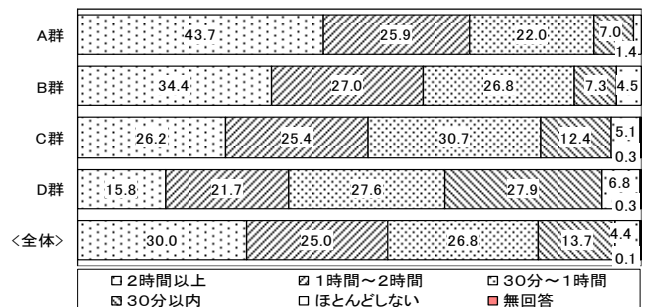


図2-1 「平日の学習総時間」<学習塾を含む> (%)

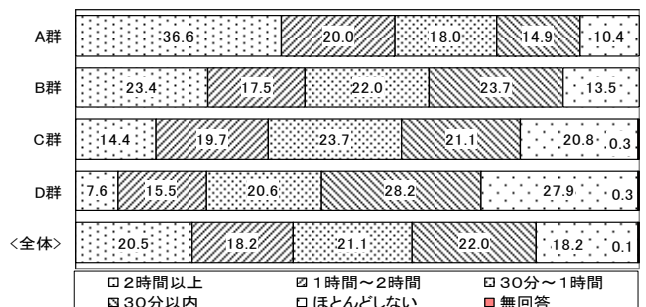


図2-2 「休日の学習総時間」<学習塾を含む> (%)

第2節 「学習内容」の実態から

「宿題以外の勉強もする」と回答した割合は、学力階層の上位群ほど多いことが明らかになった。

また、「宿題だけ」と回答した子どもたちに宿題以外の勉強をしていない理由を問うと、およそ5人に一人が「何をしてもよいかかわからないから」と回答していることが明らかになった。

第3節 「学習に対する目的意識」の実態から

これからの生活や仕事、学校で「必要」あるいは「役に立つ」から、という意識は、どの学力階層群も高く、子どもの学習を支える意識には、役立ち感や必要感の存在が大きく作用していることがうかがえる結果となった。一方、「ほめられる」「しかられる」から、という意識は、学習する目的意識に何らかの刺激となり関連があることは予想される。しかし、このような賞罰にかかわるはたらきかけは、決してプラスに作用するものになっていないことがうかがわれる結果となった。

学習をする理由について、家の人がどのようなはたらきかけをしているのか、記述式の回答結果より分析を進めた。その結果をみると、子どもが学習に対する「役立ち感」や「必要感」をもてるようなはたらきかけは、有効な支援になることが示唆された。しかし、不安感や恐怖感を与えるようなはたらきかけは、子どもが学習に向かう姿勢に有効に作用しているとは限らない、ということがうかがわれる結果となった。

第4節 「読書」の実態から

読書時間については、学力上位群ほど、長く読書に取り組むと回答した割合が多いことや、平日と休日の読書時間には強い相関関係があることが明らかになった。また、休日の読書時間に注目すると、学力階層の下位群になるほど、休日に読書を「ほとんどしない」と回答した割合が多くなっていた。特に、D群では、およそ2人に一人が、休日にほとんど読書をしていないという姿が推察される結果となった。

家の人のかかわりについては、「読み聞かせ経験」をはじめ、「本を読んだり感想を話し合ったりする経験」「図書館や書店にいく経験」について、学力階層の下位群ほど「(あまり・まったく)ない」と回答している割合が多く、読書に関する共有体験が何らかの形で学力と関連していることが示唆された。

第3章 子どもの学習行動を支える家の人のかかりから

第1節 家の人「学習面へのかかり」に関する「検証的因子分析

家の人学習面へのかかりはどのような要素で成り立っているのか、まず、探索的因子分析を通して分析を進めた。その結果、8項目の観測変数から「学習に対する指導・支援」「学習意欲を高めるための雰囲気づくり」「学習環境の整備」という3つの因子を導き出すことができた。

次に、3つの因子をもとに検証的因子分析を通して、その関連について分析をしたところ、因子間の相関は、すべて高い数値を示した。そこで「学習面への総合的なかかり」という因子を3つの因子の背後に想定したモデルを作成した。

第2節 学習行動に関するモデルの構築

家の人「学習面への総合的なかかりは、子どもの学習姿勢に影響を及ぼす」「子どもの学習姿勢は、学習時間に影響を及ぼす」ことがパスの係数から読み取ることができた。また、家の人のかかりは、「学習時間」へ直接影響を及ぼしているが、それ以上に子どもの「学習姿勢」に直接影響を及ぼし、段階的に「学習時間」に影響を及ぼしていると考えることができた。

第3節 総合的考察

作成したモデルからは、学習時間や学習内容のアドバイスをするといった、学習の進め方や内容に具体的にかかっていることが直接影響を及ぼしていると読み取ることが出来る。また、「努力したことを認めてくれる」「困ったときに見本を見せてくれる」ことなども、影響を及ぼしているということが読み取れる。

第4章 家庭へのはたらきかけにむけて

意識調査の分析結果と、筆者の経験とをふまえながら、今後の取組について若干の提言を行った。

第1節 家庭学習へのはたらきかけ

- ・学習時間については、平日も休日も同じように時間を確保して取り組む姿勢を大切にする。特に休日の時間の確保を大切にする。
- ・学習習慣の定着に向けて、宿題とともに宿題以外の学習の進め方について、「方法」を身につけられるように具体的にはたらきかける。
- ・家の人学習面へのかかりが、子どもの「学習姿勢」の形成、そして「学習時間」に影響を及ぼしていることをふまえてはたらきかける。特に、努力している姿を認めたり、アドバイスしたりするかかりを、まず大切にする。
- ・「読書」については、平日も休日も同じように時間を確保して読書に取り組む姿勢を大切にする。特に休日の読書時間の確保を大切にする。
- ・いっしょに本を選んだり読んだりするなど、本を通してかかわる時間を大切にする。

第2節 子どもの意識面へのはたらきかけ

取組の開発・進展にあたっては、「役立ち感」「必要感」がキーワードとしてあげられるが、同時に学ぶことそのものがもつ「楽しさ」や「よさ」にふれるはたらきかけを大切にしたい。